



(写真) Maduradas “チリで誘拐・殺害されたベネズエラ元軍人 Ronaldo Ojeda Moreno 氏”

ベネズエラ離反軍人殺人事件

株式会社ベネインベストメント
松浦 健太郎

3 月1日 与党国会は大統領選の提案書を選挙管理委員会(CNE)に提出。CNEは大統領選のスケジュール検討を開始した。

しかし、ベネズエラ国民の最大の関心事はベネズエラの離反軍人 Ronald Ojeda Moreno 氏(32歳)の誘拐・殺人事件にあるようで、メディアでは Moreno 氏の事件の進捗が連日報じられている。確かに本件は異例の誘拐・殺人事件で、成り行きによってはベネズエラ政治に大きな影響を与える事件になり得る。

本稿では Moreno 氏の誘拐・殺人事件について詳細を紹介したい。

チリでのベネズエラ元軍人 誘拐・殺人事件

最初に Ronald Ojeda Moreno 氏(以下、Moreno 氏)が誘拐された当時の状況について確認したい。

Moreno 氏が誘拐されたのは、24年2月21日深夜3時頃。

チリの首都 Santiago de Chile にあるマンションの14階の Moreno 氏の自宅から誘拐された。

誘拐された際の映像がマンションの防犯カメラに写っており、その映像を見る限りチリ警察(PDI)の服を着ている3~4名のグループに上半身裸で下着姿の Moreno 氏が連行されている(次ページの写真参照)。

チリ内務省は、Moreno 氏が誘拐された当日に Moreno 氏が何者かに誘拐されたと発表。誘拐事件として捜索が開始された。



そして、捜査開始から9日が経過した3月1日、Moreno 氏の遺体が発見され、翌3月2日にチリ検察は「発見した遺体が Moreno 氏本人であることを確認した」と発表した。

マドゥロ政権 関与か

Moreno 氏の誘拐・殺人事件に大きな関心が集まっている最大の理由は、彼の経歴にある。

Moreno 氏は、ベネズエラの元軍人。Moreno 氏は、「Movimiento por la Libertad y Democracia (自由と民主主義のための行動)」という反マドゥログループを結成。

「マドゥロ大統領をベネズエラ国軍の最高司令官と認めない」との文書に署名をしたことなどを理由に反乱・クーデターなどの罪で、17年4月に同グループに所属していた軍人3名らと一緒に逮捕された。

しかし、17年11月に刑務所移送中に脱走(この脱走時に一緒に逮捕された離反軍人 Rafael Arreaza 氏が殺害された)。

Moreno 氏は脱走に成功。

チリに越境し、亡命申請を行い、23年にチリ政府から亡命申請を受理されていた。

Ojada 氏は、チリへ移動した後もマドゥロ政権の人権侵害を批判する活動に参加しており、積極的に抗議集会に参加していたという。

また直近では、マドゥロ政権が捜査を行っているクーデター未遂事件「Brazaletes Blanco」に Moreno 氏が加担しており、マドゥロ政権から指名手配を受けていたとも報じられている(「ウィークリーレポート No.339」「No.344」参照)。

このようにマドゥロ政権が Moreno 氏の身柄の確保を求めている最中の誘拐・殺人事件であり、今回の事件にマドゥロ政権が関与しているのではないかと疑われている。

仮にこれが事実であれば、マドゥロ政権の非人道性が露見されることに加え、他国での誘拐・殺人を指示したということであれば、国際問題にも発展する。

実際にチリ政府の Monsalve 内務次官も「ベネズエラの諜報部が関与している可能性はある」との認識を示していた。

Moreno 氏誘拐・殺人事件の数々の不審点

Moreno 氏の誘拐・殺人事件には、マドゥロ政権の関与を疑う理由となるような不審点が複数ある。

1つ目は、誘拐は Monore 氏を狙った用意周到なものであったという点。

誘拐犯はチリ警察の服を着ており、事前に準備を行っていたことが分かる。且つ Moreno 氏が住むマンションへ行き、誘拐をしていることから Moreno 氏を狙ったことは確実である。

2つ目は、狙いが分からないという点。

チリで行われる誘拐は、通常であれば身代金目当ての誘拐だという。しかし、誘拐犯は家族に身代金を要求する連絡をしていない。

また、チリ検察によると、「Moreno 氏の遺体の状態から、3月1日の時点で Moreno 氏は死後7～10日が経過していた」という。

つまり、誘拐されて間もなく Moreno 氏は殺害されていたことになり、身代金目的というより殺害自体を目的にしていたような印象を受ける。

ただし、誘拐して身代金も要求せず、殺害するのは筋が通らない。

仮に殺害を目的としたものならば、最初から Moreno 氏の自宅で殺害すればよく、わざわざ生きた状態で誘拐する必要がない。

つまり、Moreno 氏から何らかの情報を引き出すために誘拐し、情報を得た後で殺害したのかもしれない。

3つ目は、遺体の状態が異常という点。

Moreno 氏の遺体は通常とは異なる状態で発見された。

Moreno 氏の遺体は、チリの首都 Santiago de Chile の Maipú 地区で発見された。

遺体は地中1.4メートルほどの深さに埋められており、スーツケースの中に入っていた。更に埋められた場所の地上はセメントで固められており、掘ることが出来ないようになっていたという。

これらの不審点から通常の誘拐・殺人事件とは異なる性質であることが分かる。

チリ検察の発表によると、既に犯人は特定されており、1名は既に逮捕。2名は指名手配がかけられているという。逮捕された1名は、17歳のベネズエラ人（未成年のため名前非開示）だという。

チリのメディア「Mercurio」がチリ検察から得た情報によると、ベネズエラ発祥の国際マフィア組織「Tren de Aragua」の構成員が起こした事件と説明している。

現時点では逮捕者の証言を待っている段階だが、マドゥロ政権が Tren de Aragua に Moreno 氏の殺害を委託した可能が指摘されている。

チリ国民は他人事ではない

この事件は、ベネズエラだけでなくチリでも関心をもって報じられている。

もちろんマドゥロ政権による非人道的な殺害疑惑も関心を持つ理由だが、彼らの生活に直結するテーマでもあるからだ。

チリは、南米では治安が良いとされている国である。そのチリで、警察の目を掻い潜り、犯罪者がマンションに侵入し、誘拐、殺害まで行われたことはショッキングなニュースと言える。

そして、この事件にベネズエラ系マフィア「Tren de Aragua」が関与していることも地元住民にとっては脅威である。

「Tren de Aragua」は、ベネズエラ経済が急激に低迷した2017年頃から近隣国に勢力を拡大した。

ベネズエラ人の経済力が著しく低下したため、奪う対象者がいなくなったため犯罪者がベネズエラ国外に出て行ったと言われている。

チリでは3年ほど前から「Tren de Aragua」の活動が目立つようになり、今回 Moreno 氏の遺体が見つかった Maipú 地区は「Tren de Aragua」のテリトリーとされる地域だったという。

つまり、警察の目を掻い潜り、誘拐・殺人が出来るような犯罪グループがすぐ近くに存在しているという恐怖の視点からもこの問題は関心をもって取り上げられているという。

ベネズエラ与党「ベネズエラ社会主義統一党(PSUV)」のディオスタード・カベジョ副党首は、「チリで起きた事件とベネズエラは全く関係ない」と関与を否定している。

しかし、仮にマドゥロ政権の関与が確認された場合は、国際スキャンダルとしてマドゥロ政権への風当たりは非常に強いものになるだろう。

以上